

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	化学 I A	
科目基礎情報							
科目番号	0007			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械システム工学科			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	化学基礎academia（実教出版）、ベストフィット化学基礎・ベストフィット化学（実教出版・問題集）、サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）						
担当教員	森田 康文						
到達目標							
物質の種類と性質を説明でき、それらの適切な分離や精製方法について理解している。原子の成り立ちや元素の周期律について説明できる。イオン結合、共有結合、金属結合の特徴とその結晶構造について十分に理解し、物質を結合ごとに分類できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	物質の種類と性質を説明でき、それらの適切な分離や精製方法について理解している。原子の成り立ちや元素の周期律について説明できる。			物質の種類と性質を理解し、それらの適切な分離や精製方法があることを理解している。原子の成り立ちや元素の周期律について理解している。		物質の種類と性質が理解できず、それらの分離や精製方法があることを理解していない。原子の成り立ちや元素の周期律について理解していない。	
評価項目2	イオン結合、共有結合、金属結合の特徴とその結晶構造について十分に理解し、物質を結合ごとに分類できる。			イオン結合、共有結合、金属結合の特徴とその結晶構造についておおよそ理解し、物質の物質を結合ごとに分類できる。		イオン結合、共有結合、金属結合の特徴とその結晶構造について理解しておらず、物質の物質を結合ごとに分類できない。	
評価項目3	原子量、分子量、式量を理解し、それを用いた計算が自在にできる。物質量を用いて、質量、粒子数、気体の体積を自在に計算できる。			原子量、分子量、式量を理解し、それを用いた計算がおおよそできる。物質量を用いて、物質の質量、粒子数、気体の体積をおおよそ計算できる。		原子量、分子量、式量を理解し、それを用いた計算ができない。物質量を用いて、物質の質量、粒子数、気体の体積を計算できない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	高等学校学習指導要領化学基礎の教科書に準じて、主に座学で授業を進める。単元ごとに教科書傍用の問題集（ベストフィット化学基礎、ベストフィット化学）を宿題として自宅で復習を促す。また、実験を取り入れて授業で勉強した事象を確認させる。						
授業の進め方・方法	試験：前期中間・前期末を計2回実施する。 実験：実験前に必ず予習すること。実験に必要な服装、安全な行動、後片づけ等は正しく行うこと。 出席：特別な事由がなく、授業に欠席しないこと。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと （授業外学習・事前）授業内容を予習しておく。 （授業外学習・事後）授業内容に関する課題を解く。						
注意点	学習上の留意点 ・自然の事物・現象に関することを題材にして、基本的な概念、原理、法則を理解するよう務めること。 ・学習事項の練習問題などを適宜課題とする。 ・提出物やその他課題についてはそれぞれの指示に従い、提出期限を厳守すること。 ・本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。 学習上の助言 ・教科書や副教材などを用いて、復習を中心とした自学自習を行なうこと。 ・自学自習の際、高校生向け学習参考書全般が参考となるので各自利用すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	化学と人間生活のかかわり		代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて理解できる。 洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて理解する。		
		2週	混合物の分離と精製		混合物の分離と精製を説明できる。		
		3週	物質の成分		物質が原子からできていることが説明できる。 単体と化合物の意味と具体例が説明できる。 同素体がどのようなものか説明できる。 純物質と混合物の区別ができる。 混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。		
		4週	物質の三態		物質を構成する分子・原子が常に運動していることが理解できる。 水の状態変化が理解できる。 物質の三態とその状態変化を説明できる。		

		5週	炎色反応	元素の同定方法（炎色反応）について理解できる。 レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。 実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。 事故への対処の方法（薬品の付着、引火、火傷、切り傷）を理解し、対応ができる。 ガラス器具の取り扱いができる。 基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。
		6週	原子の構造	原子の構造（原子核・陽子・中性子・電子）や原子番号、質量数を説明できる。 同位体について説明できる。 放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。
		7週	電子配置	原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。 価電子について説明できる。
		8週	前期中間試験	これまで学習した単元について理解している。
	2ndQ	9週	イオン	原子のイオン化代表的なイオンを化学式で表すことができる。について説明できる。 電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。
		10週	イオン結合	イオン式とイオンの名称を説明できる。 イオン結合について説明できる。 イオン結合性物質の性質が説明できる。 イオン性結晶がどのようなものか理解できる。
		11週	共有結合	共有結合がどのようなものか構造式や電子式により分子を書き表すことができる。のか説明できる。
		12週	共有結合と分子の形	極性と分子間力について理解している。 共有結合の結晶と分子結晶について理解している。
		13週	金属結合と金属の結晶	自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。 金属の性質が説明できる。
		14週	金属の結晶	金属の結晶格子について理解している。 結晶格子を用いた計算ができる。
		15週	元素の周期律	原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。 元素の性質を周期表（周期と族）と周期律から考えることができる。
		16週	前期末試験	これまで学習した単元について理解している。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	3	前1
				洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて説明できる。	3	前1
				物質が原子からできていることを説明できる。	3	前3
				単体と化合物がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	前3
				同素体がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	前3
				純物質と混合物の区別が説明できる。	3	前3
				混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。	3	前3
				物質を構成する分子・原子が常に運動していることが説明できる。	3	前4
				水の状態変化が説明できる。	3	前4
				物質の三態とその状態変化を説明できる。	3	前4
				ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明でき、必要な計算ができる。	3	後12
				気体の状態方程式を説明でき、気体の状態方程式を使った計算ができる。	3	後13
				原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。	3	前6
				同位体について説明できる。	3	前6
				放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。	3	前6
				原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。	3	前7
				価電子の働きについて説明できる。	3	前7
				原子のイオン化について説明できる。	3	前9
				代表的なイオンを化学式で表すことができる。	3	前9
				原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。	3	前15
				元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。	3	前15
				イオン式とイオンの名称を説明できる。	3	前5
				イオン結合について説明できる。	3	前10
				イオン結合性物質の性質を説明できる。	3	前10

				イオン性結晶がどのようなものか説明できる。	3	前10
				共有結合について説明できる。	3	前11
				構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3	前11
				自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	3	前13
				金属の性質を説明できる。	3	前13
		化学実験	化学実験	実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。	3	前5
				事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	3	前5
				測定と測定値の取り扱いができる。	3	前2
				有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	3	前2
				レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	3	前5
				ガラス器具の取り扱いができる。	3	前5
				基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	3	前5
				試薬の調製ができる。	3	後6

評価割合

	定期試験	ノート提出	レポート			合計
総合評価割合	88	7	5	0	0	100
基礎的能力	88	7	5	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0